

# コニカミノルタグループ 2010年3月期 第2四半期決算説明会

2009年10月29日

コニカミノルタホールディングス株式会社

代表執行役社長 松崎正年

- **本資料の記載情報**  
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**  
本資料で記載されている業績予想、将来予想は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

# 2009年度 業績予想の修正に関して

# 09年度連結業績修正



KONICA MINOLTA

## 09年度第2四半期連結累計業績

(単位:億円)

	前回予想 (5/14)	実績	増減	四半期別実績		増減 2Q-1Q
				1Q	2Q	
売上高	4,040	3,933	△ 107	1,894	2,039	145
営業利益	160	92	△ 68	△ 6	97	103
経常利益	120	87	△ 33	6	81	75
税引き前当期純利益	60	69	9	4	65	61
当期純利益	35	35	0	3	32	29

## 09年度通期業績修正

(単位:億円)

	前回予想 (5/14)	今回予想 (10/23)	増減	半期別		増減 下-上
				上実績	下予想	
売上高	8,800	8,170	△ 630	3,933	4,237	303
営業利益	450	340	△ 110	92	248	157
経常利益	380	325	△ 55	87	238	150
税引き前当期純利益	300	275	△ 25	69	206	137
当期純利益	170	100	△ 70	35	65	29

# 09年度連結業績修正の要約



## 09年度第2四半期連結累計業績

- ▶情報機器は、市場想定を読み違い、値上げの影響、販社構造改革、新旧製品切換え期、などの要因が重なり、1Qで大きく下振れ。  
2Qは、販売政策の転換、新製品効果で収益力は1Qを底に回復するが、当初計画に届かず。
- ▶オプトなど他事業は上振れ基調で推移するが情報機器の下振れを補えず。
- ▶固定費削減、在庫削減、FCF創出、など企業体質改革施策は計画に沿って進捗。
- ▶1Qから2Qへ向けて収益力は着実に回復基調となる。

## 09年度通期業績修正

- ▶上半期の状況を踏まえて、情報機器、オプトの下半期計画を見直した。
- ▶情報機器では市場想定を見直し、MFP販売計画を下方修正。オプトではBD用ピックアップレンズの需要拡大の遅れ、画像入出力コンポーネントの絞込みを計画に織り込む。
- ▶実行中の企業体質改革を加速させ、今回予想の達成を確実なものとする。
- ▶FCFは計画以上に確保していることから、配当については当初予想を変更せず。  
CB償還及び将来投資の原資にも充当する。

# 09年度連結業績 上半期セグメント別



(単位: 億円)

売上高	前回予想 (5/14)	実績	増減	四半期別実績		増減
				1Q	2Q	2Q-1Q
情報機器事業	2,750	2,599	△ 151	1,272	1,327	55
オプト事業	650	705	55	340	365	25
メディカル&グラフィック事業	520	529	9	237	292	55
その他事業	70	64	△ 6	28	36	8
連結調整他	50	36	△ 14	17	19	1
合計	4,040	3,933	△ 107	1,894	2,039	145

(単位: 億円)

営業利益	前回予想 (5/14)	実績	増減	四半期別実績		増減
				1Q	2Q	2Q-1Q
情報機器事業	195	79	△ 116	2	76	74
オプト事業	25	61	36	17	45	28
メディカル&グラフィック事業	5	18	13	8	10	1
その他事業	5	△ 1	△ 6	△ 2	1	3
連結調整他	△ 70	△ 66	4	△ 31	△ 34	△ 3
合計	160	92	△ 68	△ 6	97	103

# 09年度連結業績 上半期セグメント別



KONICA MINOLTA

1Qに低調であった情報機器事業の収益力が2Qには大きく改善し、オプト事業なども1Qからの上振れ基調を維持したが、全社としては1Qの未達分を挽回するには至らず。

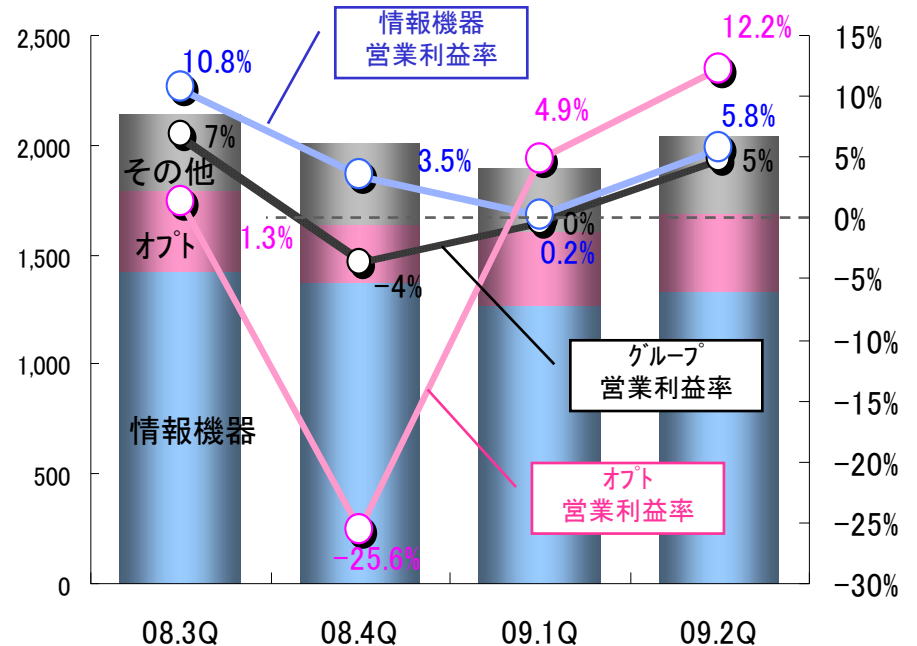
## 売上高

- ▶情報機器： △151億円の未達
  - ・当初想定以上に新規需要が低調
  - ・1Qは値上げ実施による販売環境の悪化
  - ・2Qは拡販策に方針転換し、販売モメンタムを改善。1Q導入のカラーMFP新製品も寄与。
- ▶オプト： +55億円の売上高の上振れ
  - ・TACフィルムの需要回復が1Q・2Qともに収益力を牽引

## 営業利益

- ▶情報機器： △116億円の未達
  - ・1Qは売上減による粗利減に加え、製造損益も悪化
  - ・2Qは製造損益改善と新製品効果で収益力回復
- ▶オプト： +36億円の売上高の上振れ
  - ・1Qから2Qにかけて販売数量増とともに採算性が向上

セグメント別売上高と営業利益率



情報機器は09.1Qを底に、オプトは08.4Qを底にして営業利益率は大きく改善。

# 情報機器事業 09年度上半期総括(販売状況)

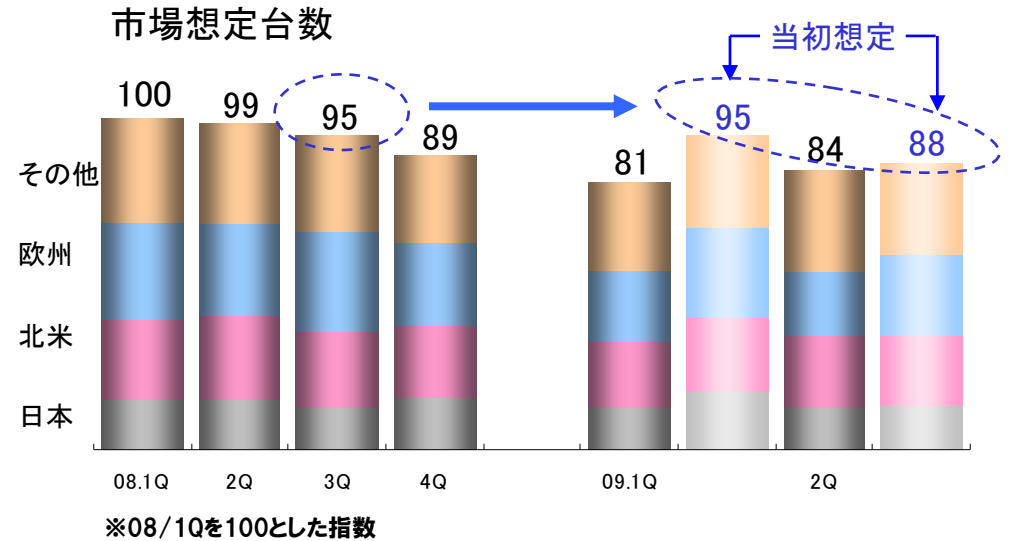


## MFP総市場の需要推移

- ▶企業のリース延長やリース与信の厳格化が続き、09年1Qの総需要は当初想定より15%減少。2Qも同様の需要水準が続くものと想定。

〈当初想定との1Q需要ギャップ〉

- ・北米市場: -10%
- ・欧州市場: -22%
- ・日本市場: -33%
- ・その他市場: -7%

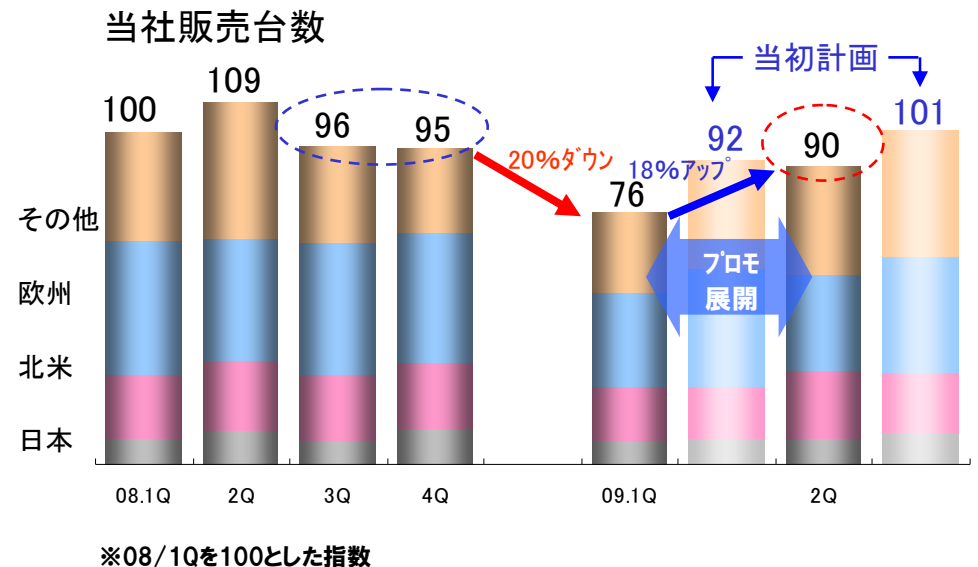


## 当社MFP販売台数の推移

- ▶6月から展開したプロモーション施策が奏功し、2Q販売台数は1Q比で+18%増加。
- ▶販売モメンタムは改善し、新旧製品切換え完了。

〈2Q販売台数の1Q比増減〉

- ・北米市場: +31%
- ・欧州市場: +1%
- ・日本市場: +6%
- ・その他市場: +34%

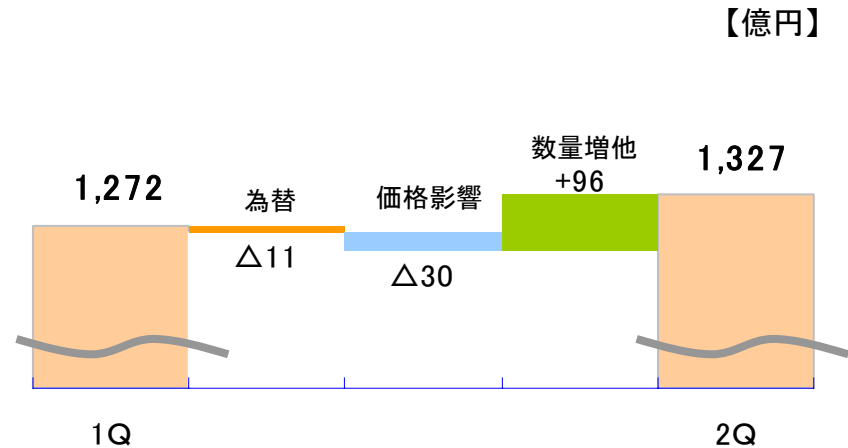


# 情報機器事業 09年度上半期総括(収益状況)



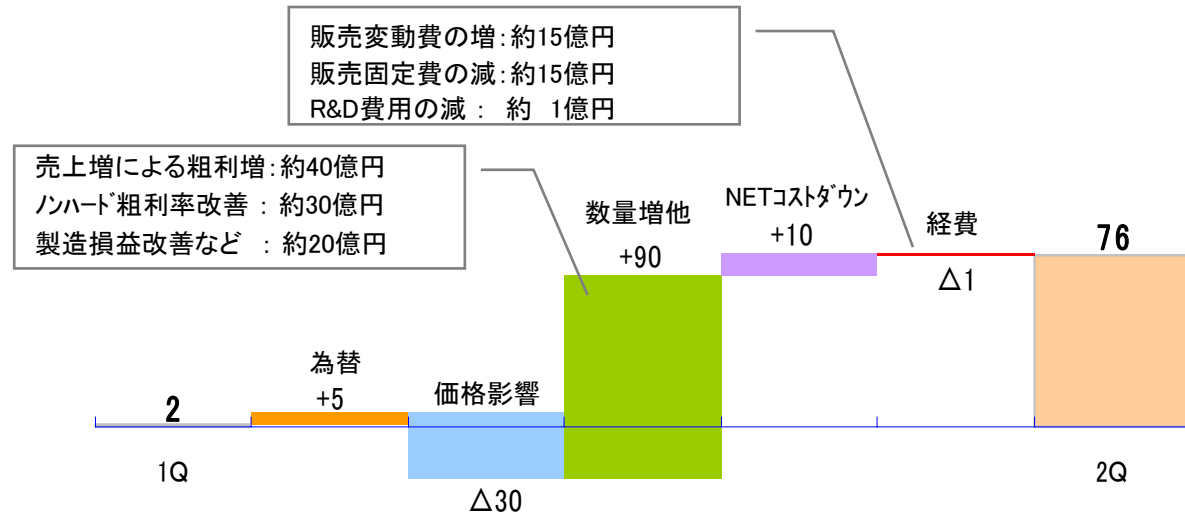
## 1Q→2Q売上高の改善

- ▶販売プロモが奏功し、モメンタムが改善。  
為替影響、価格低下の影響を除外すると実質の売上増加は約96億円。
- ▶数量増のために、プロモーション費用として約15億円を投下。



## 1Q→2Q利益の改善

- ▶数量増他での粗利改善。  
機器生産台数増加に伴う製造損益の改善やサービス費用の効率化による「ハード」粗利率改善が大きく寄与。
- ▶経費管理の徹底により、販売物量増に伴う経費増を1億円にまで圧縮。



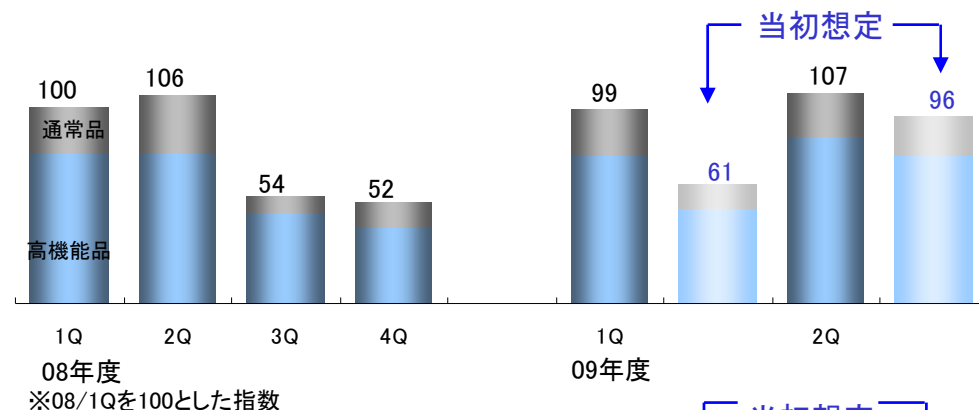


# オプト事業 09年度上半期総括(販売状況)



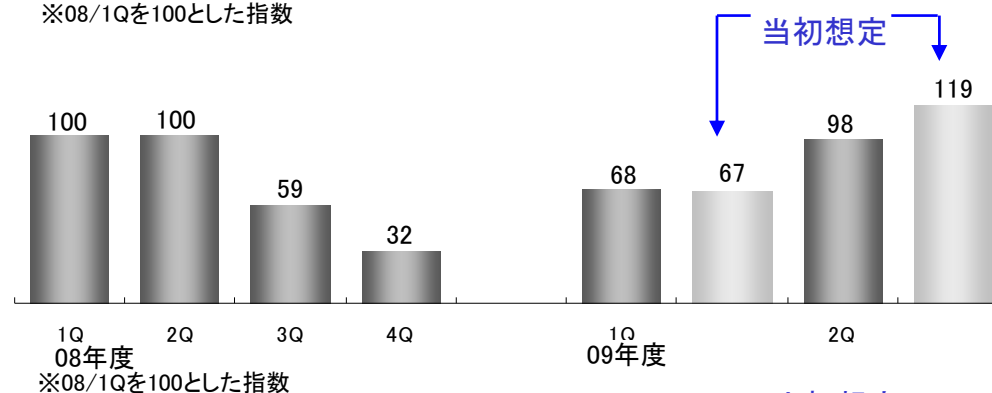
## TACフィルム販売数量の推移

- ▶需給回復が当初想定より前倒しとなった  
1Qの販売数量を2Qでは更に伸ばす。  
(販売数量 2Q/1Q: +9%増加)
- ▶当社の薄膜技術の優位性を背景にして、  
VAや薄膜TACなど高機能品が堅調に推移。



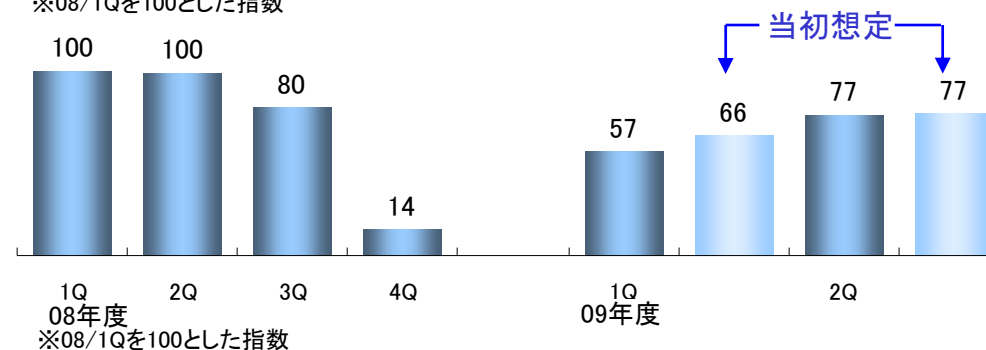
## ピックアップレンズ販売数量の推移

- ▶2Qの販売数量は1Qから大きく伸長し、ほぼ  
前年同期並みに回復。  
(販売数量 2Q/1Q: +43%増加)
- ▶BD用レンズはIT向け搭載率拡大が依然として  
弱く、当初想定を下回る。



## ガラスHD基板販売数量の推移

- ▶ノートPCを中心とした市況回復により受注が  
急増。(販売数量 2Q/1Q: +35%増加)

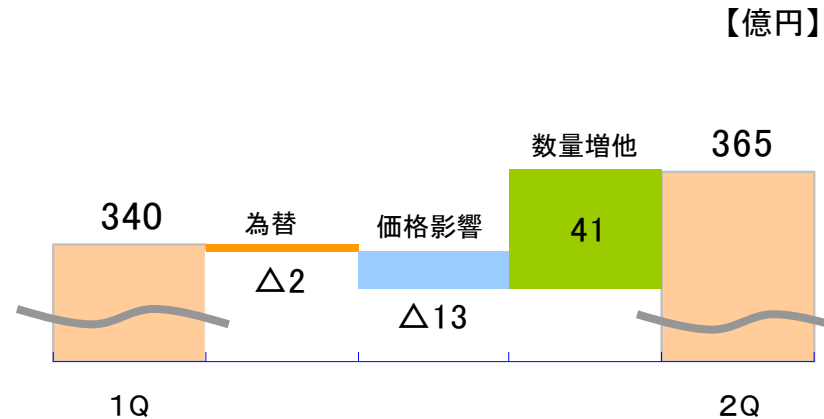


# オプト事業 09年度上半期総括(収益状況)



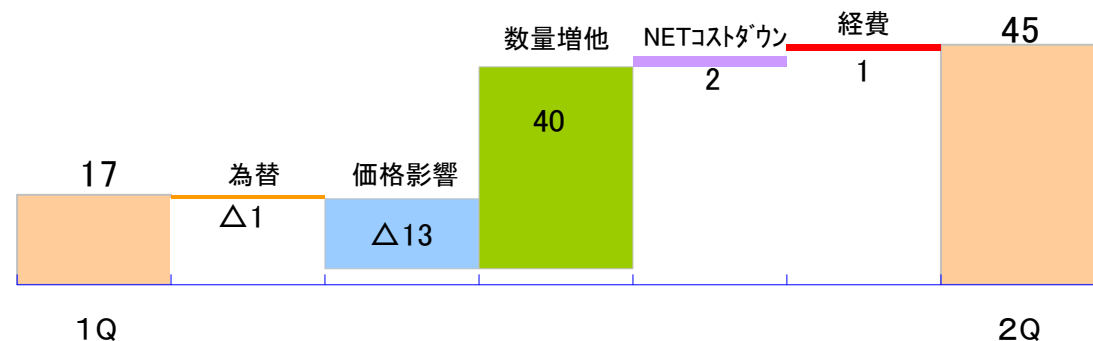
## 1Q→2Q売上高の改善

- ▶1Qより好調なTACフィルムが2Qには更に売上増を牽引。
- ▶1Q→2Qの売上増の製品別貢献度はTACフィルム、ピックアップレンズ、ガラスHD基板の順。



## 1Q→2Q利益の改善

- ▶販売数量増加に伴い、利益水準も1Qから大きく回復。
- ▶1Qでは低下していた操業度も2Qには概ね回復、限界利益改善の寄与もあり。
- ▶1Q→2Qの利益増の製品別貢献度は、売上の貢献度と同順。



# 09年度連結業績修正 下半期セグメント別



(単位:億円)

売上高	前回予想	今回予想	増減	上実績	増減
	(5/14)	(10/23)			下-上
情報機器事業	3,150	2,831	△ 319	2,599	232
オプト事業	900	715	△ 185	705	10
メディカル&グラフィック事業	580	571	△ 9	529	42
その他事業	80	81	1	64	17
連結調整他	50	39	△ 11	36	3
合計	4,760	4,237	△ 523	3,933	304

(単位:億円)

営業利益	前回予想	今回予想	増減	上実績	増減
	(5/14)	(10/23)			下-上
情報機器事業	215	201	△ 14	79	122
オプト事業	145	89	△ 56	61	28
メディカル&グラフィック事業	15	17	2	18	△ 1
その他事業	5	6	1	△ 1	7
連結調整他	△ 90	△ 64	26	△ 66	2
合計	290	249	△ 41	92	157

# 09年度連結業績修正 下半期セグメント別



KONICA MINOLTA

上半期の業績動向を踏まえ、下半期の業績見直しを見直す。

前回予想から、売上高は△523億円、営業利益は△41億円、減額修正。

## 売上高

### ▶情報機器： △319億円

- ・MFPは需要予測を当初想定から見直し、下期販売計画に織込む。但し新製品切換えによるラインナップ刷新により競争力は向上。積極的な販売施策を展開し、上半期比で+10%の増収を見込む。

### ▶オプト： △185億円

- ・BD用レンズは下半期に想定していたIT向けの需要拡大が遅れる。
- ・画像入出力コンポーネントは不採算製品の絞込みを徹底する。

## 営業利益

### ▶情報機器： △14億円

- ・販社構造改革による損益分岐点引下げ効果、及び新製品コストダウン施策による粗利率の改善などにより販売数量減による利益減を最小限に留める。

### ▶オプト： △56億円

- ・BD用レンズ販売数量減に伴う利益減を織り込む。
- ・TACフィルム及びガラスHD基板は生産性向上による採算性の更なる向上を図る。

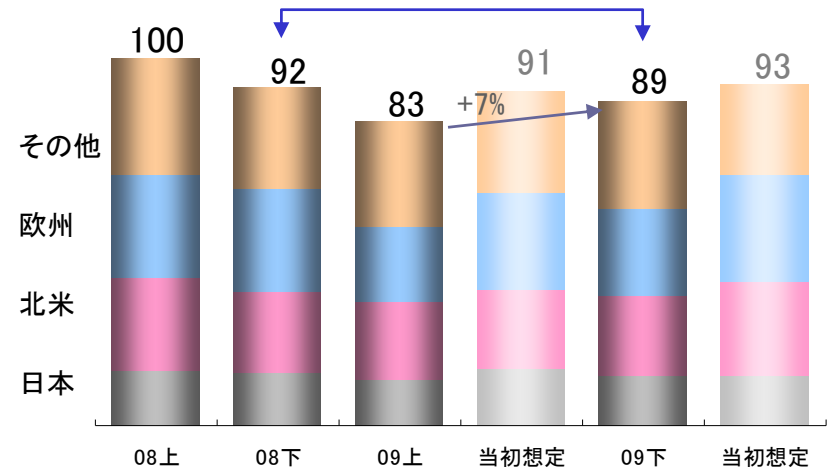
# 情報機器事業 09年度下半期見通し



## MFP総市場の需要見直し

▶上半期の状況を踏まえ、下半期の需要見直し  
台数を当初想定から一段下げ(△5%)、  
上半期→下半期の伸びを+7%と見直した。

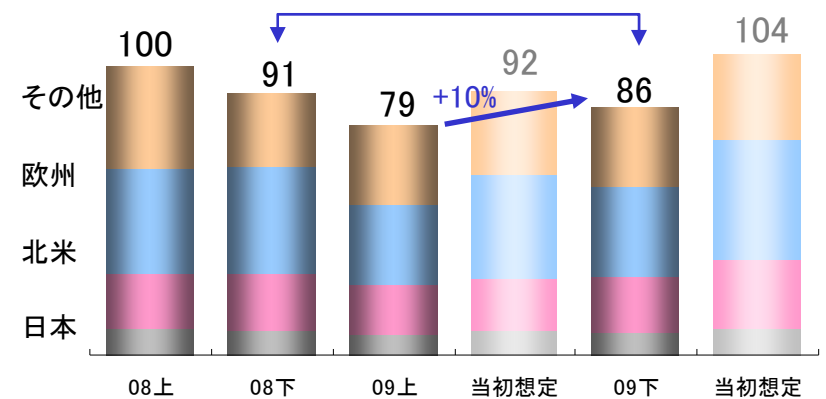
	＜上半期→下半期＞	＜下期 対前年比＞
・北米市場	+5%	-3%
・欧州市場	+15%	-15%
・日本市場	+10%	-5%
・その他市場	+5%	+5%



## 当社MFP販売台数の見直し

▶総市場の需要見直し、及び下半期の当社の競争力の回復を勧奨し、販売台数の伸びを上期比+10%と見直した。(当初計画からは△15%)

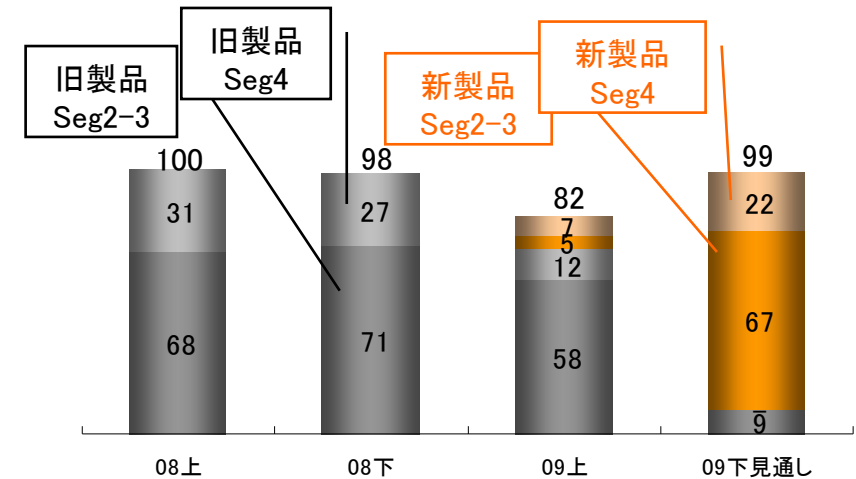
	＜上半期→下半期＞	＜下期 対前年比＞
・北米市場	+10%	-5%
・欧州市場	+25%	-10%
・日本市場	+10%	-5%
・その他市場	-10%	-10%



## カラーMFP新製品の販売見通し

- ▶旧製品の販売プロモーション施策の実施により上半期中に新製品への切換えが概ね完了。
- ▶下半期は新製品中心のラインアップとなり、競争力及び収益力が大幅に回復。シェア拡大とともに採算性の向上を目指す。

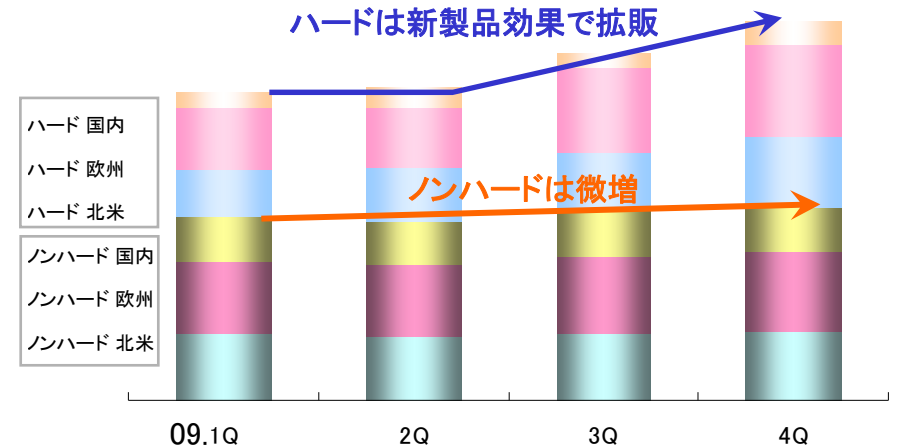
カラーMFP新製品販売見通し



## ノンハード売上の見通し

- ▶上半期においてもノンハード収益に大きな変化はなし。オフィス・プロダクションプリントともにカラーMFPの累積ベースが安定したノンハード収益を生み出す。
- ▶下半期についても、この構造に変化はないと想定。現地通貨ベースで微増を織り込む。

主要地域別ハード/ノンハード売上



# オプト事業 09年度下半期見通し

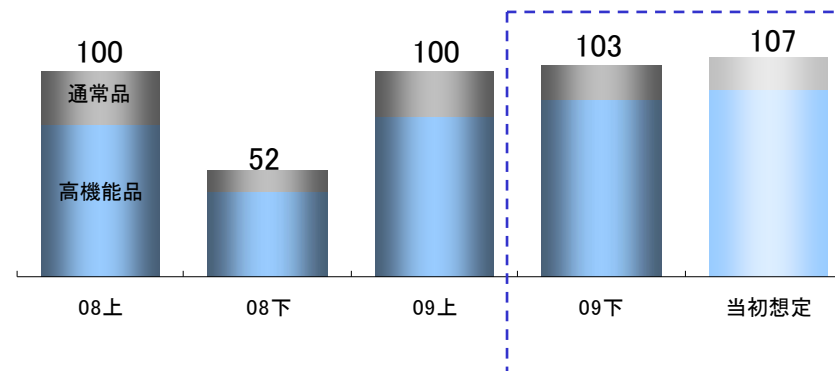


## TACフィルム販売数量の見通し

- ▶ 4Qでの調整を織込むが、VAや薄膜TACの拡販に努め、上半期以上の数量確保を目指す。

当初計画比 :  $\Delta 5\%$

上半期比 :  $+3\%$

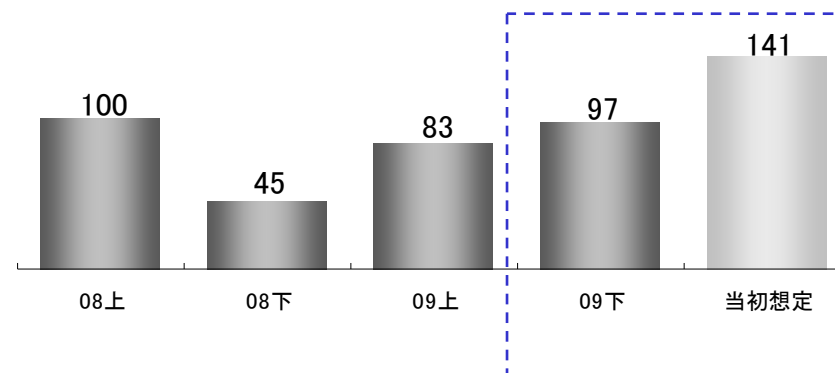


## ピックアップレンズ販売数量の見通し

- ▶ BD用レンズのIT向け需要拡大の遅れを勘案し、販売計画を大幅に見直した。

当初計画比 :  $\Delta 31\%$

上半期比 :  $+17\%$

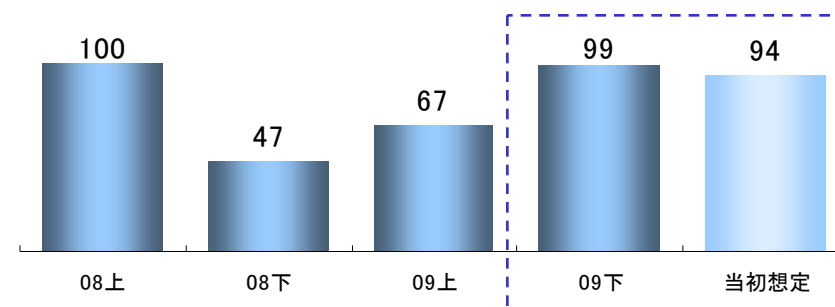


## ガラスHD基板販売数量の見通し

- ▶ ノートPC向けを中心とした需要の急回復を受けて拡大。

当初計画比 :  $+6\%$

上半期比 :  $+48\%$

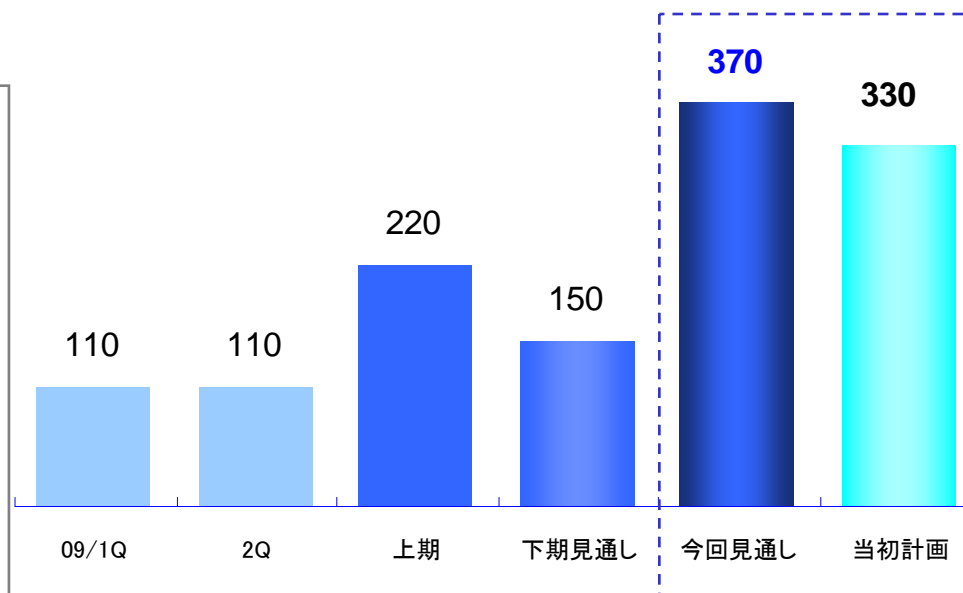


# 収益力向上に向けた経営施策



## 固定費削減施策の状況

- ▶情報機器事業： 海外販売部門における人員適正化は上期で計画通り完了。  
Dankaの統合も当初予定から1年前倒しで実行。
- ▶オプト事業： 国内外生産体制及び人員適正化は08年4Qで完了。一部製品分野では受注の急回復に対応し、増産体制に移行。
- ▶メディカル&グラフィック事業： 構造改革計画に沿って、製造・販売部門とも概ね計画通りに進捗。



## 更なるコスト削減の取組み

グループ最適化の観点で、今まで取組みの遅れていた施策について、短期及び中長期の改革を進める。

- ・物流費の削減
- ・IT費用の削減
- ・調達費用の削減



# フリーキャッシュフローの見通し



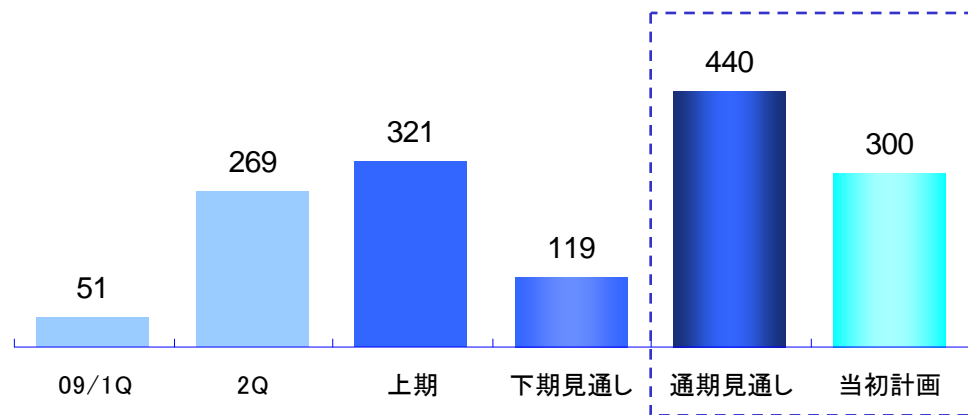
**今回見通し: 440億円/年間 (当初計画: 300億円)**

**上期実績: 321億円(計画100億円)**  
 当初計画からの改善

- ▶ 棚卸資産圧縮 +120億円
- ▶ 設備投資圧縮 +100億円

下期の施策

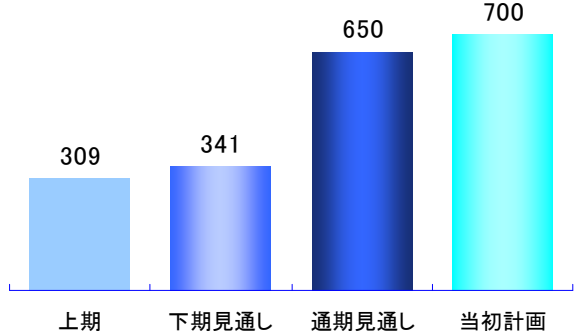
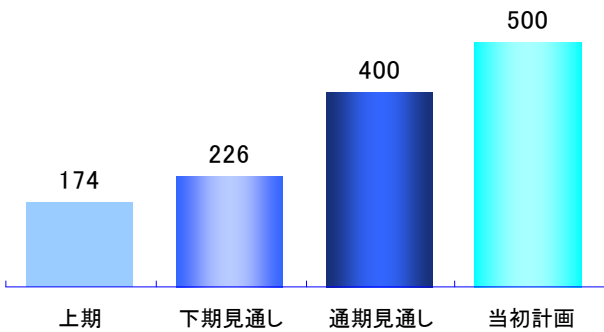
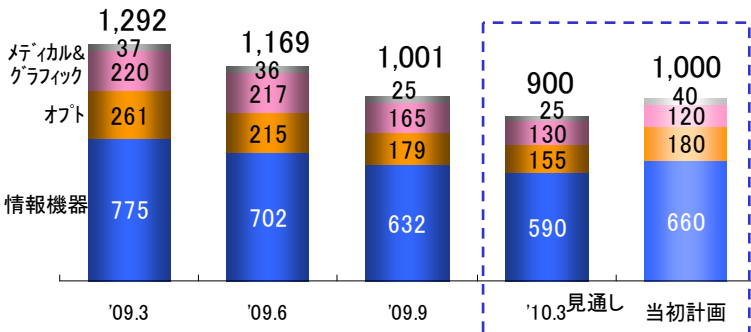
- ▶ 棚卸資産の圧縮、徹底した選択と集中による設備投資を実行し、更なる改善に取り組む。



**棚卸資産の圧縮: '10.3末 900億円**  
 当初計画: 1,000億円

**設備投資額の圧縮: 400億円/年間**  
 当初計画: 500億円

**減価償却費の見通し: 650億円/年間**  
 当初計画: 700億円



# 新たな成長の創出へ向けた取組み



## プロダクションプリント分野

3～5年の時間軸において、プロダクションプリント分野をオフィスMFP分野と並ぶ当社情報機器事業の二本柱として意識的に事業拡大を図り、業界トップクラスのポジションを獲得するとともに 当事業の持続的成長を牽引する事業基盤の構築を目指す。

- ▶次期中核製品の開発加速し、商品競争力の徹底強化を図る。
  - ・2010年度初よりカラー、モノクロとも新シリーズを順次展開
- ▶競争力あるライバル領域を更に強固にするとともに、事業領域をミッド/ヘビー領域及び商業印刷領域への本格拡張を図る。
  - ・Oce社との提携強化により、企業内印刷向けの商品及びソリューションのラインアップを拡充
  - ・当社グラフィック部門との連携強化し、商業印刷分野での事業拡大を加速
- ▶当社独自のビジネスモデルを確立し、商業印刷分野での確固としたポジションを他社に先行して獲得する。
  - ・ソリューション開発力の徹底強化と顧客への提案力強化のための体制整備を進める。

# 新たな成長の創出へ向けた取組み



## 環境・エネルギー分野

3～5年、5～10年の時間軸において、当社のコア技術を複合化・融合化することで環境・エネルギー分野の新事業を複数立上げ、情報機器事業、オプト事業と並ぶ「第3の事業」として長期視点での育成を進める。同時に、革新的な製品・サービスの提供を通じて、「省エネ」・「創エネ」で広く社会に貢献できる「環境企業」を目指す。

- ▶ 急成長するLED照明市場をターゲットにした光学コンポーネント部材に参入
  - ・当社独自の光学ガラス技術を活かした、LED照明用光学モジュールの製品化に着手。
- ▶ デジタル家電以外の分野をターゲットに「環境型フィルム」の開発に着手し、薄膜領域の業容拡大を図る。
- ▶ 有機EL照明は、2010年度事業化に向けたステージへ進む
  - ・2010年度事業化に向けて、量産技術の確立と初期限定販売用製品供給の体制を整備。
  - ・有機材料技術・薄膜技術・塗布技術を高度化/複合化し、有機薄膜太陽電池、二次電池への展開も検討開始。



KONICA MINOLTA

〈参考資料〉

2010年3月期  
第2四半期業績に関して

# 09年度第2四半期 連結業績のポイント



## 前年同期比

- ▶ 売上高 : 実質増減  $\Delta 501$ 億円 為替影響額  $\Delta 238$ 億円
- ▶ 営業利益 : 実質増減  $\Delta 61$ 億円 為替影響額  $\Delta 84$ 億円

## 直前期比

- ▶ 売上高 : +145億円

情報機器は、プロモーション施策が奏功し、販売モメンタムが改善。新旧製品切換え完了。オプトもTACフィルム中心に上振れを維持。

- ▶ 営業利益 : +103億円

情報機器は+74億円、オプトは+28億円の増益。販売数量増に伴い損益は回復

## 企業体質改善施策

- ▶ 昨年4Qから実行中の企業体質改革は、計画に沿って進捗。
- ▶ 減収減益の中でも、FCFは計画以上に確保。

# 連結業績 四半期比較



KONICA MINOLTA

				[億円]	
	09年度 2Q	08年度 2Q	YoY	09年度 1Q	QoQ
売上高	2,039	2,778	△ 739	1,894	145
売上総利益	892	1,233	△ 341	797	95
(売上総利益率)	43.7%	44.4%		42.1%	
営業利益(△損失)	97	242	△ 144	△ 6	103
(営業利益率)	4.8%	8.7%		-0.3%	
経常利益	81	199	△ 118	6	75
税前利益	65	191	△ 126	4	61
当四半期純利益	32	117	△ 84	3	29
(当四半期純利益率)	1.6%	4.2%		0.2%	
EPS [円]	6.10	21.96		0.56	
設備投資額	100	176	△ 76	75	25
減価償却費	155	178	△ 22	154	2
研究開発費	176	210	△ 34	177	△ 0
FCF	269	201	69	51	218
為替レート [円] USD	93.65	107.66	△ 14.01	97.32	△ 3.67
Euro	133.74	161.93	△ 28.19	132.57	1.17

# セグメント別売上高/営業利益 四半期比較

[億円]

売上高	09年度			09年度	
	2Q	2Q	YoY	1Q	QoQ
情報機器	1,327	1,771	△ 443	1,272	55
オプト	365	584	△ 219	340	25
メディカル&グラフィック	292	349	△ 57	237	55
その他事業	36	47	△ 10	28	8
HD他	19	28	△ 9	17	1
グループ計	2,039	2,778	△ 739	1,894	145

[億円]

営業利益	09年度			09年度	
	2Q	2Q	YoY	1Q	QoQ
情報機器	76	152	△ 75	2	74
(営業利益率)	5.8%	8.6%		0.2%	
オプト	45	101	△ 57	17	28
(営業利益率)	12.2%	17.3%		4.9%	
メディカル&グラフィック	10	14	△ 5	8	1
(営業利益率)	3.3%	4.1%		3.5%	
その他事業	1	6	△ 5	△ 2	3
HD他	△ 34	△ 32	△ 2	△ 31	△ 3
グループ計	97	242	△ 144	△ 6	103
(営業利益率)	4.8%	8.7%		-0.3%	



# 連結業績 上半期比較



	[億円]		
	09年度 1H	08年度 1H	YoY
売上高	3,933	5,330	△ 1,396
売上総利益	1,689	2,432	△ 743
(売上総利益率)	42.9%	45.6%	
営業利益(△損失)	92	487	△ 395
(営業利益率)	2.3%	9.1%	
経常利益	87	479	△ 391
税前利益	69	499	△ 429
当四半期純利益	35	293	△ 257
(当四半期純利益率)	0.9%	5.5%	
<b>EPS [円]</b>	<b>6.67</b>	<b>55.19</b>	
設備投資額	174	313	△ 139
減価償却費	309	339	△ 30
研究開発費	353	419	△ 66
FCF	321	108	213
為替レート [円] USD	95.49	106.11	△ 10.62
Euro	133.16	162.68	△ 29.52

# セグメント別売上高/営業利益 上半期比較

売上高	[億円]		
	09年度 1H	08年度 1H	YoY
情報機器	2,599	3,438	△ 838
オプト	705	1,094	△ 390
メディカル&グラフィック	529	662	△ 133
その他事業	64	86	△ 22
HD他	36	49	△ 13
グループ計	3,933	5,330	△ 1,396

営業利益	YoY		
	09年度 1H	08年度 1H	YoY
情報機器	79	323	△ 244
(営業利益率)	3.0%	9.4%	
オプト	61	190	△ 128
(営業利益率)	8.7%	17.3%	
メディカル&グラフィック	18	29	△ 11
(営業利益率)	3.4%	4.3%	
その他事業	△ 1	10	△ 11
HD他	△ 66	△ 64	△ 1
グループ計	92	487	△ 395
(営業利益率)	2.3%	9.1%	

# 09年度業績予想

[億円]

	2009年度 予想			
	1H 実績	2H	年間	
売上高	3,933	4,237	8,170	
営業利益	92	248	340	
(営業利益率)	2.3%	5.9%	4.2%	
経常利益	87	238	325	
税前利益	69	206	275	
当期純利益	35	65	100	
(当期純利益率)	0.9%	1.5%	1.2%	
設備投資額	174	226	400	
減価償却費	309	341	650	
研究開発費	353	367	720	
FCF	321	119	440	
為替レート[円]	USD	95.49	90.00	92.75
	Euro	133.16	130.00	131.58

# 09年度業績予想 セグメント別



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	2009年度 予想		
	1H 実績	2H	年間
情報機器	2,599	2,831	5,430
オプト	705	715	1,420
メディカル&グラフィック	529	571	1,100
その他事業	64	81	145
HD他	36	39	75
グループ計	3,933	4,237	8,170

営業利益	2009年度 予想		
	1H 実績	2H	年間
情報機器	79	201	280
(営業利益率)	3.0%	7.1%	5.2%
オプト	61	89	150
(営業利益率)	8.7%	12.4%	10.6%
メディカル&グラフィック	18	17	35
(営業利益率)	3.4%	3.0%	3.2%
その他事業	△ 1	6	5
HD他	△ 65	△ 65	△ 130
グループ計	92	248	340
(営業利益率)	2.3%	5.9%	4.2%

# 情報機器事業 概況



## ● オフィスMFP

カラー：欧米市場を中心に機器販売は低調。但し、新旧製品の切換えは完了。

モノクロ：米国中心に需要回復傾向。

## ● カラータンデムプリンター(LBP)

タンデムカラー機は前年同期比+20%増と堅調。カラー機全体では同+80%増。

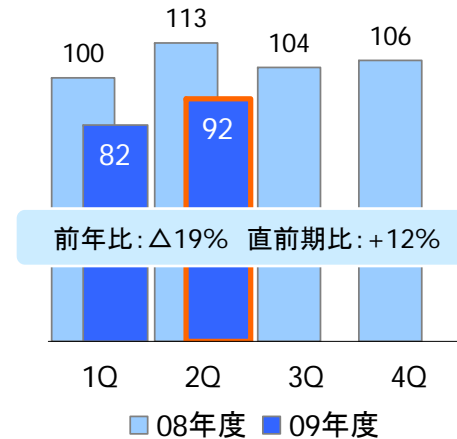
## ● プロダクションプリント

景気影響を受けて対前年では低調ながら1Q→2Qでは為替影響排除後で約2割増。ノンハード売上も為替影響排除後で前年同期比+8%と堅調

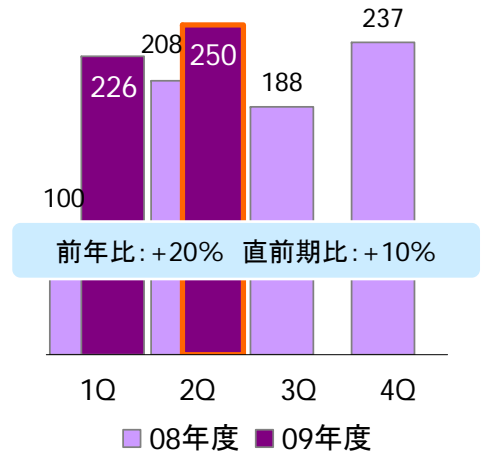
## ● MFPノンハード売上(主要5販売)

オフィスは対前年減少するもプロダクションプリントが牽引。

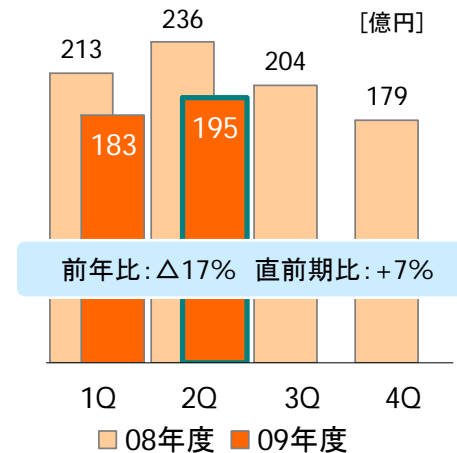
### ■ カラーMFP販売台数\*



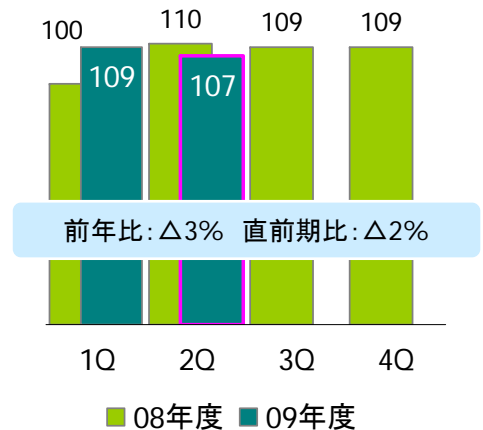
### ■ カラータンデムプリンター(LBP)\*



### ■ プロダクションプリント売上高



### ■ MFPノンハード売上(主要5販売)\* (現地通貨ベース)

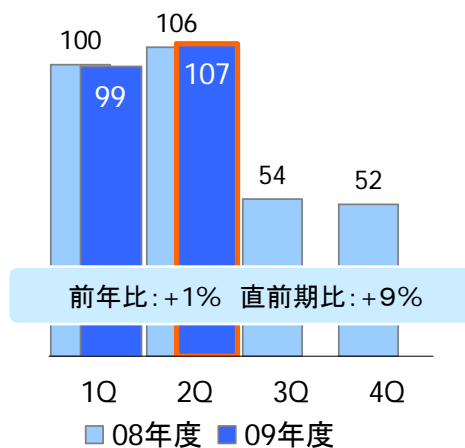


# オプト事業 概況

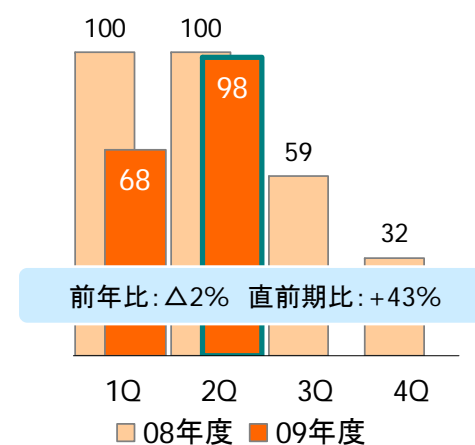
## ● TACフィルム

需要回復を受け、前年同期並みの水準まで回復。VA-TACは大型液晶TV向けに、40 $\mu$  通常品はノートPC向けに、販売は堅調。

### ■ TACフィルム販売数量



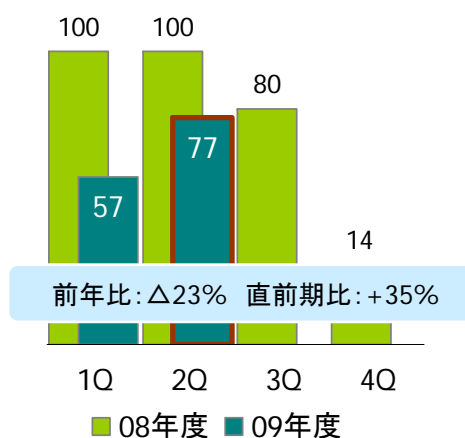
### ■ ピックアップレンズ販売数量



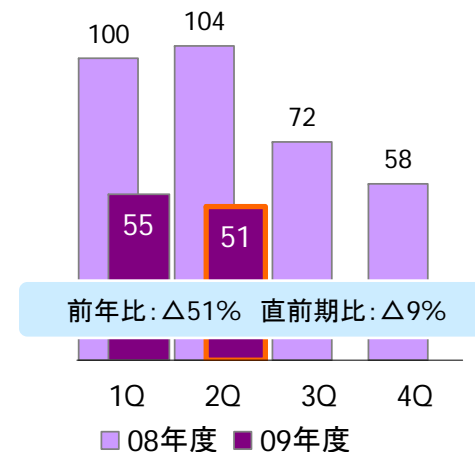
## ● ピックアップレンズ

2Qの販売数量は1Qから大きく伸長し、前年並みの水準まで回復。

### ■ ガラスHD基板販売数量



### ■ 携帯電話用コンポーネント



## ● ガラスHD基板

2Qの販売数量は1Qから更に回復。250G以上の高密度化が進む。

## ● 携帯電話用コンポーネント

不採算製品の絞込みを徹底する。

前方棒グラフ: 09年度実績 後方棒グラフ: 08年度実績

08.1Qを100とした場合の指数

# 営業利益増減分析

[億円]				
前年同期比 (2Q: 08年度 vs. 09年度)	情報機器	オプト	その他	合計
<b>[要因]</b>				
為替影響	△ 70	△ 3	△ 10	△ 84
価格変動	△ 37	△ 72		△ 109
数量増減他	△ 31	△ 37	△ 40	△ 108
コストダウン	13	23	8	44
経費増減	51	32	29	112
<b>[営業利益]</b>				
増減額 (YoY)	△ 75	△ 57	△ 12	△ 144
直前四半期比 (09年度1Q vs. 2Q)	情報機器	オプト	その他	合計
<b>[要因]</b>				
為替影響	5	△ 1	△ 2	2
価格変動	△ 30	△ 13		△ 43
数量増減他	90	40	7	137
コストダウン	10	2	△ 1	11
経費増減	△ 1	1	△ 3	△ 3
<b>[営業利益]</b>				
増減額 (QoQ)	74	28	1	103

参考: 1円当たりの為替感応度(年間換算)・・・US\$/ 1億円 €/ 7億円

# 販売管理費・営業外損益・特別損益



KONICA MINOLTA

[億円]

	09年度 2Q	08年度 2Q	YoY	09年度 1H	08年度 1H	YoY
<b>販売管理費</b>						
販売変動費	108	150	△ 42	198	280	△ 83
研究開発費	176	210	△ 34	353	419	△ 66
人件費	293	364	△ 71	603	725	△ 122
その他	217	266	△ 49	444	522	△ 78
<b>販売管理費 計</b>	<b>795</b>	<b>991</b>	<b>△ 196</b>	<b>1,597</b>	<b>1,946</b>	<b>△ 348</b>
	* 為替影響額: <b>△ 65億円(実質131億円の減)</b>			<b>△ 125億円(実質223億円の減)</b>		

## 営業外収支

金融収支	△ 5	△ 13	8	△ 9	△ 14	5
為替差損益	△ 12	△ 31	20	2	△ 6	9
その他	0	2	△ 1	3	12	△ 9
<b>営業外収支 計</b>	<b>△ 16</b>	<b>△ 43</b>	<b>26</b>	<b>△ 4</b>	<b>△ 8</b>	<b>4</b>

## 特別損益

固定資産売却損益	△ 13	△ 6	△ 7	△ 15	△ 10	△ 5
投資有価証券および関係会社株式評価・売却損益	△ 0	△ 0	0	△ 2	28	△ 30
事業譲渡益			0		31	△ 31
事業構造改善費用	△ 4	△ 8	4	△ 12	△ 14	2
退職給付制度改訂損			0		△ 20	20
その他	1	5	△ 5	11	6	5
<b>特別損益 計</b>	<b>△ 16</b>	<b>△ 8</b>	<b>△ 8</b>	<b>△ 18</b>	<b>20</b>	<b>△ 38</b>



# 連結貸借対照表



	[億円]		
資産の部	09年9月	09年3月	増減
手元資金	1,744	1,337	406
売上債権	1,675	1,718	△ 44
棚卸資産	1,010	1,292	△ 282
その他	603	702	△ 99
<b>流動資産 計</b>	<b>5,031</b>	<b>5,049</b>	<b>△ 18</b>
有形固定資産	2,156	2,279	△ 123
無形固定資産	1,030	1,116	△ 86
投資その他	728	737	△ 8
<b>固定資産 計</b>	<b>3,914</b>	<b>4,131</b>	<b>△ 217</b>
<b>資産 合計</b>	<b>8,946</b>	<b>9,181</b>	<b>△ 235</b>
<b>負債および純資産の部</b>			
仕入債務	723	871	△ 148
有利子負債	2,438	2,304	134
その他負債	1,686	1,863	△ 176
<b>負債 合計</b>	<b>4,847</b>	<b>5,038</b>	<b>△ 191</b>
自己資本 (株主資本+評価換算差額等)	4,088	4,134	△ 46
その他	11	9	2
<b>純資産</b>	<b>4,099</b>	<b>4,143</b>	<b>△ 44</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>8,946</b>	<b>9,181</b>	<b>△ 235</b>

	[円]		
	09年9月	09年3月	増減
US\$	90.21	98.23	△ 8.02
Euro	131.72	129.84	1.88

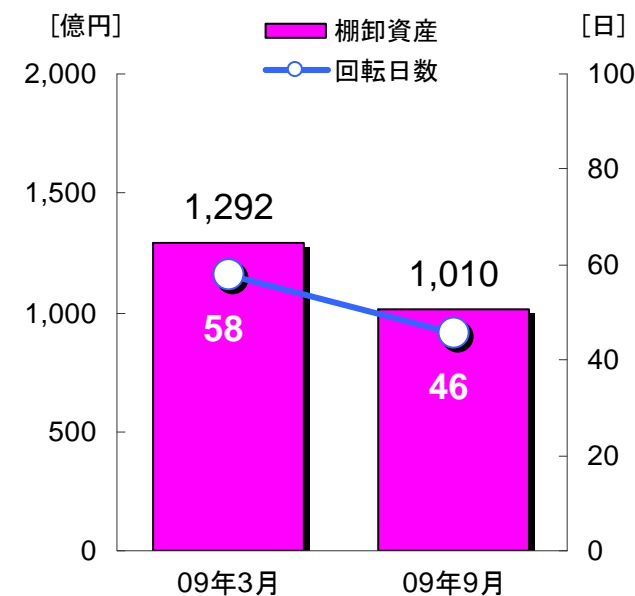
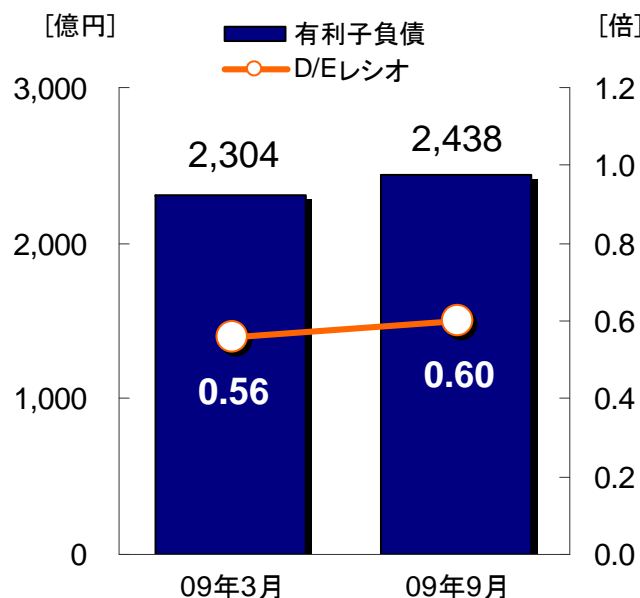
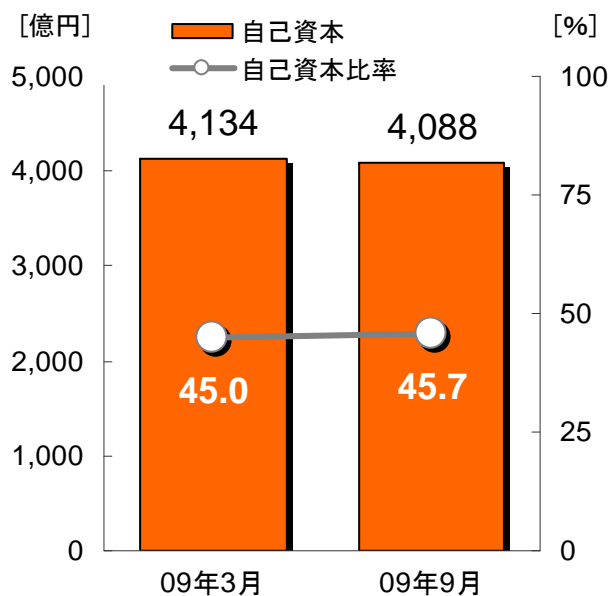
# 連結貸借対照表 主要指標



## ● 自己資本比率

## ● 有利子負債残高・D/Eレシオ

## ● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



自己資本比率:  
 自己資本 ÷ 期末総資産  
 ※自己資本=期末株主資本+評価・換算差額合計

D/Eレシオ:  
 期末有利子負債 ÷ 自己資本  
 ※自己資本=期末株主資本+評価・換算差額合計

棚卸資産回転日数:  
 期末棚卸資産 ÷ (売上/日)  
 算出対象期間:  
 09年3月=09年1~3月  
 09年9月=09年7~9月

# キャッシュ・フロー



KONICA MINOLTA

	09年度 2Q	08年度 2Q	YoY	09年度 1H	08年度 1H	YoY
	[億円]					
税金等調整前四半期純利益	65	191	△ 126	69	499	△ 429
減価償却費	155	178	△ 22	309	339	△ 30
法人税等の支払額	71	△ 16	87	62	△ 199	261
運転資本増減他	107	65	42	101	1	99
<b>I. 営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>398</b>	<b>418</b>	<b>△ 20</b>	<b>541</b>	<b>640</b>	<b>△ 99</b>
<b>II. 投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 129</b>	<b>△ 217</b>	<b>88</b>	<b>△ 220</b>	<b>△ 532</b>	<b>312</b>
<b>I.+ II. FCF</b>	<b>269</b>	<b>201</b>	<b>69</b>	<b>321</b>	<b>108</b>	<b>213</b>
有利子負債の増減	△ 75	△ 33	△ 42	137	△ 195	332
配当金の支払額	△ 0	△ 1	△ 1	△ 53	△ 40	△ 13
その他	△ 5	△ 8	△ 3	△ 10	△ 20	10
<b>III. 財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 80</b>	<b>△ 42</b>	<b>△ 38</b>	<b>74</b>	<b>△ 255</b>	<b>329</b>